



編集後記

長らく開店休業状態だった『セミナー通信』を復刊することにした。

今回は、そのための復刊準備第1号である。

何故復刊することにしたのか。それは長らく停滞していた言説空間に風穴があき、風が再び吹き始めたという感触があるからである。

かつて高度成長の時代があった。その頃大学生たちによって「サラリーマンにでもなる」しかない未来が閉塞的なものとして語られていた。

その後には「終わりなき日常」から逃れられないという前提のもとに出口のない均質化された世界をどう生きるかという問題が語られる時代があった。

しかし今やそれら「豊かさ」を前提とした時代の悩みは急速にそのリアリティを失いつつある。時代は明らかにターニングポイントにさしかかりつつある。

筆者自身は、この「豊かさ」を前提とした時代をリアルタイムに生きてきた。それ故その時代の悩みがリアリティを失うということは、自分自身の生きてきた道そのものが批判的に問い返されることでもある。

しかし時代の変わり目には、一瞬霧が晴れ、人は自分たちが歩いてきた後方に広がる荒野を眼下に収めることができるようだ。そういう数少ない時がもしかすると今この時なのではないかという予感がある。それが自分にとって心地よいものではないとしても、前方に広がる未来の光景が希望に満ちたものではないとしても、そうした変化の時代に立ち会える巡り合わせを肯定的に捉えたい。

2003年から続けてきた公開セミナーは常に精神分析を未来へつなぐ道を模索してきたが、堂々巡りの閉鎖回路のような時代の空気は如何ともし難いという感触があった。しかし今、時代は変わりつつある。この変化が公開セミナーにどのような影響を与えるかは、いまだ未知数だが、新たな時代に向けて、再び情報を発信していきたいと思う。